

【全体】

Q1

1Q業績は計画通りだったのか？1Qから2Qの営業利益にかけて大幅な増益が必要となるが、見直しを見直さないのか？

A1

例年1Qから2Qにかけて季節要因から50～70億円程度改善する。

1Qは中国のG11の稼働が開始したが出荷がまだ少なく、減価償却費の負担増の影響が大きかった。これは当初見込み通りである。化学品も2年に1度の定期修繕があり、1Qは弱いとみていた。従って、1Q営業利益は想定に近い。一つだけ想定より弱かったのは、自動車ガラス用の素板窯の設備修繕に手間取ったことである。

Q2

1Qから2Qにかけて増益になるのは、季節要因が大きいとのことだが、何が改善するのか？

A2

全てのセグメントで増益を見込んでいる。ガラスについて建築用ガラスは季節要因で増益になる。自動車用ガラスは例年3月が強いが、今年は2Q以降に1Qの問題が解消され増益になるとみている。電子についてディスプレイはG11の設備の稼働が上がっていくことで増益になる見通し。化学品については1Qに大規模定期修繕が終わったことで増益になるとみている。

Q3

1Qから2Qにかけて80億円の増益を見込んでいるが、どのセグメントが貢献するのか？

A3

2Qの営業利益は290億円近い利益が必要だが、季節要因による50～60億円の増益に加え、電子のG11や自動車用ガラスのモロッコ工場の稼働が上がることで増益幅が大きくなる。

Q4

下期にかけて外部環境の改善を想定しているのか？

欧州の自動車、オプトエレクトロニクス関連、苛性ソーダの市況改善はどのように見ているのか？

A4

欧州の自動車は弱含み、自動車生産は前年比で5～6%落ちており、その影響を受けている。ただ利益貢献は大きくないので、インパクトは少ない。スマホ関連は足元弱いですが、下期に向けてカメラのデュアル化などが進むことで出荷が大きく伸びていくと思っている。電子セグメントは、EUVマスクブランクス

増産効果も出てくる。化学品の市況は、エチレン価格が低い状況。今期エチレン価格を 900 ドルでみているが、その水準になっている。苛性ソーダは期待していたより若干弱い、インドの BIS 規制の認証取得が各社進んでいることもあり、今をボトムに上がるとみている。

Q5

今年から通期のセグメント別見通しを開示しているが、上期のセグメント別見通しの開示はないのか？

A5

各事業の上期の業績見通しは通期の比率とあまり変わらないが季節性がある。電子は下期型。ガラスは、自動車用ガラスは若干上期型、建築は下期型なので全体としてフラット。化学品は若干下期型。以上を踏まえて想定して頂きたい。

Q6

総還元性向 50%以上という方針に変更ないか？その場合、自社株買いも実施するのか？

A6

総還元性向 50%以上、配当は現状維持以上という方針に変わりはない。

Q7

事業構造改善費用について、1Q に 12 億円はどういうものか？

A7

事業構造改善費用は、電子部材関連の子会社の拠点集約によるもの。これによって今後生産効率は上がる見通し。

Q8

また新規連結の 2 社の利益寄与は限定的とみてよいか？

A8

新規連結をした 2 社の営業利益の影響は限定的である。

Q9

原油の前提について、今期見通し 60 ドルに対して、足元は 70 ドルになっている。この影響は？原油高の化学品に与える影響は？

A9

ドバイ原油の感応度は\$1/bbl 上昇で年間 3 億円の減益要因となる。見通し比で 10 ドル上がっており、その影響をガラスと化学品が受ける。一方で欧州の天然ガスは天候不順の影響で昨年急騰したが、今は落

ち着いており想定よりも下がっている。プラスの要因もあるので、原油高の影響は年間▲30 億円程度と見ておけばいいだろう。

エチレンの価格は、北米のシェールガス由来のエチレンクラッカーが稼働を始めたことで下がっていると理解している。原油上昇によるエチレン価格の上昇は限定的だろう。

Q10

原油のヘッジ益はどれくらいか？

A10

10 億円程度。

【戦略事業】

Q11

戦略事業の動向を教えて欲しい。戦略事業の売上高は前年比でどれくらい伸びた？

A11

戦略事業は順調に拡大している。18 年は通期で 17%の寄与だったが、Q 毎に寄与率は上がっており、大きな増益となっている。ライフサイエンスの増益幅が大きい。エレクトロニクスは EUV マスクブランクス好調も、光学フィルターの出荷数量が落ちた影響を受けた。モビリティの寄与率はまだ低い。戦略事業の売上高は前年同期比で 20%伸びている。

【ガラス】

Q12

ガラス事業の営業利益率が元の水準に戻るのはいつ頃？

A12

建築用は堅調。問題は自動車用ガラス。自動車用ガラスは下期からは平常状態に戻せるとみている。

Q13

自動車用素板窯の設備修繕の詳細について教えて欲しい。

また自動車用ガラスの日本における生産効率悪化の状況はどうなっているか？

下期には解決するとのことだが、どのような前提なのか？

A13

自動車用素板ガラスの窯の修繕については、期間が長引いた。その結果、素板不足で他社から購入することになり、大きなコストアップとなった。これは一過性のもので、2Q の終わりから平常状態に戻る。自動車用ガラスの生産効率悪化は、これまでもお話してきた通り、難形状品対応で設備投資したが、垂直に立ち上がらず、苦戦したことによるもの。足元では良化傾向にあるので、下期には平常化するだろう。

Q14

この素板窯の修繕の影響で発生したコストはどれくらいだったのか？

A14

具体的な金額は申し上げられないが、それなりに大きい金額だった。

Q15

自動車用ガラスについて、素板の窯修繕については解決しているのか？

A15

解決している。影響は2Qに若干出るが、すでに解決している。

Q16

自動車用ガラスの難形状品は今後も出てくると考えられるが、対応できるのか？

A16

難形状品対応の設備を導入したが、立ち上げに苦戦した。それは解消されてきているので、元の状態に戻ると考えている。

Q17

自動車用ガラスの素板窯修繕の件は、冷修あるいは温修を行った後立ち上げがうまくいかなかったのか？それとも、修繕に時間がかかったのか？

A17

修繕の時間が想定よりかかった。

【電子】**Q18**

電子部門、前年同期比で32億円の減益だがその要因は？

A18

減益要因のほとんどがディスプレイ。G11稼働開始に伴い減価償却費が年間で70億円増加することに加え、液晶ガラスの価格下落の影響もあり、電子セグメントは減益となった。

Q19

電子部材は増益だったのか？

A19

スマホ関連は弱かったが、半導体関連が好調で横ばい。電子部材は下期型なので今後伸びる見通し。

Q20

2Qの液晶用ガラス基板の出荷数量見込みは？

A20

テレビが売れておりパネルメーカー好調なので、数量は前四半期比で1桁半ば%の増加になるとみている。

Q21

EUVマスクブランクスの上は年間で倍増との想定だったが、1Qの進捗は？

A21

想定通りである。

【化学品】**Q22**

化学品の営業利益が前年比で26億円減益である要因を教えてください。

A22

国内の大規模定期修繕の影響が大きく、クロールアルカリ製品のみならずフッ素・スペシャリティも減益となった。また、国内の電気代上昇も1Qのコストアップ要因になった。ライフサイエンスは健闘したものの、減益要因を打ち消すことができなかった。

Q23

国内規模定期修繕の額と規模は？

A23

金額は言えないが、この影響が大きい。但し、これは一過性のもの。

Q24

苛性ソーダの海外市況が弱いですが、国内販売価格に影響はないか？

A24

東南アジアと国内の価格は連動しない。

以上